

「第11回日本イノベーター大賞 特別賞」受賞

研究開発センターの尾上誠蔵氏は2012年12月4日に「第11回日本イノベーター大賞」の特別賞を受賞しました。日本イノベーター大賞は、2002年に日経BP社が創設した賞で、日本の産業界で活躍する独創的な人材にスポットを当てることにより日本に活力を与える目的で実施され、今年で11回目となります。新しい産業、ビジネスモデル、技術、価値を作り上げ、現在の日本に活力をもたらした人が対象で、企業の技術者、大学の研究者、経営者など幅広い分野の中から推薦、選考されます。日本発の独創的なアイデアで、実行力、日本の産業を変える可能性があり、すでにある程度の成果を出していることが選考基準となります。今回は6月から2カ月間の公募と、日経BP社内での推薦をあわせた候補者の中から24名を選定し、最終選考会にて大賞、優秀賞、特別賞が決定されました。評価ポイントは、日本オリジナルの新しい価値を発信しているか、その価値が日本国内だけでなく海外からも高く評価されているか、その結果、日本に何らかの活力を直接、間接的にもたらしているか、となっています。

今回受賞理由となったLTEについて、ドコモは2004年5月にそのコンセプトを提唱し、尾上氏を中心として通信機器企業など通信関連の有力企業を訪問して協力を呼びかけ、2004年12月、賛同を得た世界の主要ベンダ、オペレータとともにLTEの検討開始を提案、承認後、主要オペレータの要求条件を中心となって取りまとめました。2006年6月からの詳細仕様検討では、基本仕様の安定化作業と3GPP全体の会議を推進、2006年よりLTEの試作装置の開発に着手し、屋内での伝送実験、屋外伝送実験にて下りスループット250Mbit/sを達成し、実現性、有効性、周波数利用率などを世界に先駆けて確認しています。ドコモは2010年からLTEの商用サービスを開始し、現在は国内の移動体通信各社から商用提供され、欧米その他海外でも商用導入が進んでいます。この業績に対し尾上氏は「日本発の技術として、一気に世界で普及が進み始めた高速通信技術であるLTEの国際標準規格化に大きな役割を果たした」ことから、特別賞を受賞しました。

